

# ANNUAL REPORT 2022

**MONKEY  
MAGIC**



NPO法人モンキーマジック  
2022年活動報告書

# Summary

もくじ

ごあいさつ

## 分断の時代に、人々の可能性を広げるため クライミングにできることは

2022年は、戦争という憎しみの連鎖が始まった悲しい年として歴史に刻まれました。そんな時代に私たちにできることは何なのか。かつて古代ギリシアの時代に、戦いや争いに代る手段として人々に愛されるようになったスポーツ。同じ楽しみや目標を持つ人々が集い、コミュニケーションが交わされることで、自然と自分自身や互いの理解を深めてきた。スポーツに関わる者としてそう信じたいと思っています。

2022年、モンキーマジックでは、欧州ドイツでの現地視察や、全国各地での交流型イベント立ち上げと発展支援などの事業を精力的に推し進めました。クライミングが端緒として、コミュニケーションが取りにくくなった社会でも活力や自己効力感を向上させることが分断を食い止める大きな力となり、ひいては平和な世界につながると確信しています。

活動要旨

## 障害当事者に必要とされる場を守り続けるために

NPO法人モンキーマジックの公益活動の柱である多様性理解促進クライミングイベント事業・視覚障害等クライミングイベント事業は、なんとか2022年も毎月欠かさずことなく開催することができました。

年間を通じた参加者の内訳をみると、障害の有無に関わらず誰もが一緒に楽しめる交流型クライミングイベント（通称：マンデーマジック）において、過去に比べて障害当事者の参加比率が高い結果となりました。

これは障害当事者にとって、モンキーマジックのイベントに参加することが、健常者に比べて貴重な

2023年は新型コロナウイルスの感染症位置づけの緩和などを後押しに、これまで種を撒いてきた活動を結実させていきたいと思えます。一層社会が豊かになるよう尽力してまいります。どうか引き続きのご指導ご支援どうぞよろしくお願い申し上げます。

2023年3月  
代表理事 小林 幸一郎

副代表 水谷 理



ごあいさつ・活動要旨

▶ P1

VOICE

モンキーな人々に話を聞いてみた

▶ P3-5

TOPIC

2022年のトピック

▶ P7-11

主催事業

交流型クライミングイベント/スクール・練習会

▶ P12-15

主催事業

地域交流事業

▶ P16-17

受託事業

講習会 / 講演など

▶ P18-21

MEDIA

メディア掲載・出演

▶ P22-23

OTHER

サポートグッズ・その他の事業

▶ P24-25

DONATION / SUPPORT

寄付・協賛のお願い

▶ P26-27

ABOUT

モンキーマジックについて

▶ P28-29

※「障害者」の表記については、公的機関でも使用している漢字での表記に統一しています。これは「障がい者」や「障害者」などの表記に対して、「害」という表記のみに敏感になり本質を見落とすことがないように、という私どもの意志によるものです。

代表 小林 幸一郎(視覚障害当事者)

# Voice

モンキーな人々に話を聞いてみた

## INTERVIEW #1

### 常連さんの磯野さん

国立障害者リハビリテーションセンターの視覚障害の仲間たちが「今度クライミングのイベントに行く」と話しているのを知り、「僕も連れてって!」とお願いし、マンデーマジック東京@高田馬場に参加したのがきっかけ。最初は4~5人で参加しましたが、今は1人でもイベントに参加しています。

単調な運動かと思っていたが、頭も使うスポーツで楽しいと感じる。(ロープを使わない)ボルダリングでも、毎回結構な高さの壁に挑戦しているが、高さの怖さよりも登る楽しさの方が勝っていると思う。



磯野さん  
78歳

#### どんなところが良いと思ってくれていますか？

僕の場合は、ひとつの課題をいつも1回でクリアできずに2回3回と登っていて、手こずったりして何度も挑戦するのが楽しい。イベント参加の常連さんが簡単に登れているところをみて感心しながらも、「自分もできるはず!」と思って挑戦しているし、もっと頑張ろうと思える。

こうして続けられる場所があることが大事だと思うので、変わらず開催し続けてほしい。

## INTERVIEW #2

### 「鳥モンキー」の市村さん

視覚障害の方を支援する仕事をしている関係で小林さんのご活躍を知り、ぜひ交流型イベントを体験したいと思ったのがきっかけです。松江にいらっしやると知って、ちょっとだけお話しさせていただき、次に東京出張の際に、チャンス!とばかりマンデーマジックに参加しました。

#### 参加して変化はありましたか？

もちろんありました。マンデーマジックで、視覚障害の方、聴覚障害の方、義足の方など本当に様々な人がただクライミングを楽しむ仲間として同じ空間にいるという体験をし、これこそあるべき社会の縮図だと感じました。そして、鳥取でも同じように障害の有無に関わらず一緒にクライミングを楽しむ場所ができないだろうか考えるようになりました。自分の勤める社会福祉法人主催で「チャレンジド」

クライミング」を実施し、そこから発展して「鳥モンキー」をスタートすることができました。まさか本当に実現できると思っていなかったのが驚いています。

#### どんなところが良いと思ってくれていますか？

「障害の有無に関わらず、ただクライミングを楽しむ仲間としてそこにいる」と感じられる場所があるということです。わたし自身は、クライミングに関しては全くの初心者で、正直に言いますとまだまだクライミングの楽しさは十分に実感してはいませんが、この場は継続できるようにしたいです。

(今後に期待することは) この活動がどんどん全国に広がっていくといいなということだけです。

市村さん  
60代ぎりぎり前半



## INTERVIEW #3

### 初参加してくれた学生のKさん

きっかけは大学の授業。授業の演習でパラクライミング選手に取材して記事を書くことになり、取材の前にまずは自分も体験してみたいと思いました。ネットで普段から通っていた葛西のロックランズでイベントがあることを知り、マンデーマジック東京@葛西への参加を決めました。

クライミングは経験者でしたが、視覚障害の方へのガイドや、アイマスクをしてルートに登る体験は新鮮なものでした。初めてサイトガイドをした時は、「もっと右!」「違う、やっぱり左!」などと叫びすぎて喉が枯れてしまったのを覚えています。一回きりのつもりが、今では毎月のように参加しています。サイトガイドも少しは上達したかもしれません。

#### 参加して変化はありましたか？

自分の価値観が必ずしも全てではないということに気づきました。私にとっては「普通」と感じていることでも、他人にとってはそうではないということです。例えば、晴眼者である私と視覚障害者の方では物の捉え方も感覚も異なります(今までで一番驚いたのはスマートフォンの使い方です)。そのような相違点を「自分とは違う」と切り捨ててしまう人は世の中に一定数います。しかし、そうではなく、互いの差異に興味を持ち、その中から共通点を見出せるような人間でありたいと思うようになりました。↗

大学という場所は、どちらかと言えば、環境も進路も似通った人が多く、自分もその多数派の一人に身を委ねているにすぎません。また、コロナ禍の影響で、学内でさえも交流できる機会は限られています。このイベントでは、たくさんの大人と交流することができ、刺激をいただいています。

#### どんなところが良いと思ってくれていますか？

クライミングという共通言語を通じて、様々な属性の方(障害、職業、クライミング歴…etc)と交流できることです。クライミングの魅力は、個人競技でありながらも、コミュニケーションを大事にするところだと思います。

例えば、全く話したことのない人とも、登り始めてしまえば、いつの間にか「ガンバ!」と互いに応援しています。また、普段はおとなしい人やクールな人も、完登できた時やあと少しで落ちてしまった時には、必ず素の表情が出て、全身で嬉しさや悔しさを表現します。そういった瞬間を共有できることが楽しいです。

ただ会話をするだけでは馴染みにくい人でも、一緒に登ることで、多少なりとも心を通わせることができるのではないのでしょうか。



Kさん  
大学生

# INTERVIEW

## スクールにご参加されたきっかけは何ですか？

2006年に遡りますが、某イベントで小林さんとお知り合いになる幸運があり、その日のうちにボルダリングジムに連行され、気がついたらモンキーのスクールにも通うようになっていました。当時は、基本的にアウトドアのスクールしかなく、天候の悪い時だけジムを利用していました。が、そのうちにインドアスクールも常設されるようになり、よりクライミングの楽しみ方の幅が広がったように思います。今思うと、偶然としか言いようのない出会いでしたが、本当に自分はラッキーだったと思います。

当時から登山はしていましたが、(スクールに参加したことで) それまでの自分の持っていた自信や価値観がよい意味で壊されました。いわゆるカルチャーショックのような状態になり、アウトドアとの関わり方が大きく変容したのを今もよく覚えています。それに何より、日常生活ががらりと変わりました。クライミングを楽しむ友人ができ、登攀する時に応援したり・してもらったり、そういう経験が自分にとっては新鮮だったのだと思います。クライミングは身体を戦略的に動かすスポーツですが、その頃から人体への興味も深まっていきました。結局、つまらない会社勤めを放棄し、今の鍼灸の世界に飛び込んでしまいました。



## クライミングの楽しいところはどこですか？

正直に言わせていただければ、楽しいと感じるには、わたしの場合はかなりの時間がかかりました。クライミングを始めたころは、それなりにウエイトもあり、重力に抗するだけの筋力も備わっていませんでした。皆さんがいるいる教えてくださっても、何かなんだか訳がわからず、周りがどんどん上達する中、一人取り残されたような絶望感がありました。が、そのような中でも辛抱強くご指導いただいて、登攀できなかった壁を制覇できたときに、それこそガチョウが空を飛べたような感動的な気分になりました。おそらく、それが現職を志すきっかけの一つとなったと思ってます。

今後自分自身がしてみたいこととして、クライミングを通じて、試験的にいろいろな教育研究をしてみたいと思います。クライミングには、ありとあらゆる要素が内在されています。これに視覚障害というファクターが加わるとき、どうすれば効率的に指導ができるのか、あるいはトレーニングできるのか、モンキーマジックの経験の蓄積と合わせて考えていきたいです。

## 「Laureus Sport for Good Award (ローレウス・スポーツ貢献賞)」にノミネートされました

モンキーマジックがノミネートされたのはローレウス財団が主催する『ローレウス世界スポーツ賞 2022』のスポーツを通して若者の生活を向上させ、地域を一つにするコミュニティプログラムに贈られ

る「スポーツ・フォー・グッド部門」。残念ながら受賞には至りませんでした。世界スポーツ界のアカデミー賞ともいわれる賞に名を連ねることができたことは光栄でした。

## 新たに「みちびクライミング・ライト」を設置しました



京都府京田辺市のユニバーサルクライミングハウス「Rock on the Beach」のリード壁に、光でロービジョンクライマーを導く「みちびクライミング・ライト」を設置しました。みちびクライミング初のローブ課題となりました。

## ボルダリングジム「モンキーマジックつくば」が8周年



モンキーマジックの根拠ジムである「ボルダリングジム モンキーマジックつくば」は、2022年3月28日に開店8周年を迎えました！

皆さまには日頃のご利用ご愛顧、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

## 「チャレンジドガールズクライミングスクール」が始動

クライミングへの挑戦を通じて、障害のある女性のエンパワーメントを目的としたスクール。ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団から助成を受け、プレー・アカデミー with 大坂なおみのプログラムとして運営。



篠原果歩さん (ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団)

INTERVIEW

### プレー・アカデミーとモンキーマジックとのつながり

ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団は、スポーツの力で暴力、差別、社会的格差を無くすことを目的に、現在、世界50カ国、300以上もの開発のためのスポーツ事業を通じて子どもたちや青年を支援しています。2021年1月よりNPO法人モンキーマジック(以下、モンキーマジック)を助成支援しており、2022年から「プレー・アカデミー with 大坂なおみ(以下、プレー・アカデミー)」の一員に加わりました。プレー・アカデミーでは、生涯を通して影響が続くと証明されている遊びとスポーツを、現代社会に浸透しているジェンダー格差を埋めるのに役に立つエンパワーメントツールとして活用し、女の子の生活に変革をもたらすことを目的としています。また、2022年にはローレウス・ワールド・スポーツ・アワード「スポーツ・フォー・グッド部門(注1)」にモンキーマジックをノミネートさせていただきました。

注1 スポーツを通して若者の生活を向上させ、地域を一つにするコミュニティプログラムに贈られる賞。2022年は世界中から5団体がノミネートされた。



篠原さんを含むローレウス職員がチャレンジドガールズクライミング教室を訪問したときの様子  
©Play Academy with Naomi Osaka / Hiroki Nishioka

### 2022年のチャレンジドガールズスクールを振り返って

私たちが支援するモンキーマジックの事業では、障害のある女の子・女性を対象にクライミング教室を月2回程度開催し、障害のない方とのクライミングを通じた交流の機会を創出しています。スポーツ庁などの統計を見てみると障害のある女性のスポーツ参加率は各段に低いことがわかります。障害だけではなく性別も含む複合差別の対象となりうる参加者に対し、女性に特化したクライミング空間を創出することで彼女達の自己効力感や社会性の向上を狙うこの活動はたいへん先駆的です。スポーツをすることが当たり前でない対象者への参加呼びかけに苦戦していますが、このような「空間」ができたこと自体に意義があります。彼女達が安心・安全に活動へ参加できるように、参加者に耳を傾け、スタッフ間やプレー・アカデミーの仲間たちとの意見交換、セーフガーディングや女の子のコーチング研修の開催・参加を通じて、「学び」と「その応用」にも積極的に取り組まれている姿・実行力は、持続可能な組織・プログラムづくりにおいて大変重要です。

### 今後、モンキーマジックやガールズスクールに対して期待すること

ガールズスクールでは、自己にチャレンジする参加者の挑戦と笑顔に溢れ、モンキーマジックのスタッフが指導者としてではなく「参加者の成長を見守るクライミング仲間の一人」として活動し、多様な仕掛けで参加者とスタッフ全体の交流を活性化しているところも印象的です。女性に特化したプログラムはモンキーマジックにとって初めてとのことで不安も多い中スタートされたと思いますが、ぜひ今後もこの素敵な取り組みを続けていってほしいです。

## 障害者クライミング事情探訪@ドイツ・ミュンヘン



インクルーシブスポーツとして障害者クライミング活動が盛んなドイツ。医療としての価値をはじめ、多くの人にクライミングが多様性理解を促進すると認知されており、活動に対して地域からの後押しがあるなど、まさにロールモデルでした。難民を対象としたプログラムなどヨーロッパの抱える社会課題にも取り組んでいました。

## 視覚障害・リハビリテーション専門家へ学会での実践報告



愛知県名古屋市にて開催された、第30回視覚障害リハビリテーション協会研究発表大会にて、「若者や障害者の多様性理解向上を目指したクライミング活動実践報告」と題したポスター発表を行いました。調査研究の発表が多い中、唯一の余暇やスポーツに関わる発表でした。

## 第8回『見えるチャレンジクライミング』を開催



毎年恒例の主催目かくし、クライミングコンペをクライミングジムNOSE町田店にて開催しました。参加者は15組36名(内、視覚障害6名、身体機能障害2名・サイトガイドを含む)、その他にも多くのボランティアの方々に支えていただき、大盛況のイベントとなりました。

〈特別協賛〉  
THE NORTH FACE(株式会社ゴールドウイン) / CHUMS(株式会社ランドウエル) / 株式会社シーワテック

# 主催事業

交流型クライミングイベント/スクール・練習会



交流型  
クライミングイベント



クライミングスクール



全国交流型  
クライミングイベント

## 北杜市・THE NORTH FACE連携事業を開催しました



山梨県のクライミングジムLOKUBOKUで、北杜市とTHE NORTH FACEの連携事業において、モンキーマジック指導による障害者クライミング体験教室「Challenge Climbing in Hokuto 2022」を開催しました。世代問わず20名以上の方々に、チームに分かれてトップロープ・ボルダリングを楽しんでいただきました。

## AKIYO'S DREAMボルダリング体験会の指導を担当



クライミングの普及を目指し、野口さんが社長を務める「AKIYO'S Company(アキヨズ・カンパニー)」が茨城県のニューライフアリーナ龍ヶ崎で開催した「AKIYO'S DREAM」内で、ボルダリング体験会の指導を担当しました。

## Here to be 2022-2023 助成金継続決定

ルルレモンの社会貢献プログラム「Here to be」に助成いただき、2022-2023は全国各地域での交流型クライミングイベントの活性化、新たな地域の開拓・立ち上げる活動を行いました。11月25日のルルレモン青山ストアのオープンを記念して、一週間のご来場者様お1人につき500円の寄付もいただくなど、ご支援いただきました。

## 日本アダプテッド体育・スポーツ学会にて報告発表

京都府京都市の同志社大学にて開催された、日本アダプテッド体育・スポーツ学会第27回大会にて、「ドイツにおける障害者クライミング活用事例調査報告」と題したポスター発表を行いました。6月の視察内容について報告することができました。

2022年の  
主催事業開催回数総計 **129**回



うち障害者のべ **482**名  
(視覚/聴覚/上肢・下肢/重複含む)

昨年のデータ  
開催回数：115回  
総参加者数：716名  
うち障害者：378名

## 交流型クライミングイベント

### マンデーマジック東京@高田馬場

開催回数	10回	障害の内訳	
参加者	143名	視覚障害	70名
うち障害者	88名	聴覚障害	5名
		上肢・下肢	5名
		その他	8名

### マンデーマジック横浜@戸塚

開催回数	11回	障害の内訳	
参加者	89名	視覚障害	34名
うち障害者	42名	その他	6名
		上肢・下肢	2名

### マンデーマジック東京@葛西

開催回数	10回	障害の内訳	
参加者	80名	視覚障害	38名
うち障害者	56名	その他	2名
		上肢・下肢	16名

## クライミングスクール

会場：ノーズ町田店（東京都）・ベースキャンプ入間店（埼玉県）・グリーンアロー海浜幕張（千葉県）

### インドアスクール

開催回数	12回	障害の内訳	
参加者	41名	視覚障害	32名
		その他	1名
		上肢・下肢	7名

### アウトドアスクール(天王岩・東京都あきる野市)

開催回数	1回	障害の内訳	
参加者	4名	視覚障害	3名
		聴覚障害	1名

### ロープクライミング体験会・練習会

開催回数	3回	障害の内訳	
参加者	7名	視覚障害	7名

### New チャレンジドガールズクライミングスクール

開催回数	11回	障害の内訳	
参加者	34名	視覚障害	29名
		聴覚障害	1名
		下肢障害	1名
		知的・発達	1名
		その他	2名

### 応援メッセージ



モンキーマジックの交流会に参加させていただき、とても感謝しています。  
突然障害者となり、励みになっております。  
今後ともよろしくお祈りします。

齋藤 和子さん



交流会に参加したことで、登ることの達成感と努力することの楽しさを知ることができました。

大谷 武彦さん



せっかく障害者になったので、年齢も障害も言い訳にしない！をモットーに登ってます。とても楽しいです！

島山 直久さん

## 全国交流型クライミングイベント

活動趣旨に賛同してくださった有志により、主催イベントのある東京・横浜以外に全国17カ所でイベントが開催・運営されています。

開催回数 **71**回 / **15**地域 (テスト開催は除く)

主催地域数 2021年 **14**地域 ▶ 2022年 **17**地域



あなたのお住まいの近くで開催しているイベントをチェック！

### 全国交流型クライミングイベントの3つのポイント

- 地域の人々が主催して定期的に開催する地域に根ざしたクライミングイベント
- 障害の有無や年齢・性別・国籍などの違いに関係なく、全員が同じいち参加者
- 新しい人と人がつながり、多様性を認め合い、クライミングを楽しむ仲間になれる場所

# 受託事業

講習会 / 講演など

## クライミング指導 (HKK講習含む)

- ・神奈川県立スポーツセンター「障がい者スポーツ教室」の指導を担当(知的・発達障害13名の子供たちと保護者やご兄弟の方を含め約25名)
- ・鳥取県にてパラクライミング体験会と講演(一般社団法人 鳥取県障がい者スポーツ協会主催)
- ・発達障害など心身の障害のある子ども・青年にアクティビティを提供する「プチ冒険クラブ」クライミング部を指導。夏にはアウトドアクライミングプログラムも実施(鷹取山)
- ・茨城県つくば市にて小学生へクライミング指導を担当(NPO法人ネクストワン主催)。夏には2泊3日のクライミングキャンプも指導。
- ・日本ブラインドサッカー協会主催のスポーツ体験教室でクライミングプログラムを担当(視覚障害の小中学生とその兄弟が対象、小学校1年生から中学校2年生まで25名)
- ・「障がい者スポーツ教室体験会」にてボルダリング教室の講師を担当(神奈川県障がい者スポーツ協会運営)
- ・B-PUMP 荻窪主催「THE3 - UNION IS STRENGTH -」に開催協力
- ・神奈川県藤沢市とミズノ株式会社の共同事業にてボルダリングの講師を担当
- ・高知県立盲学校にて代表小林がクライミング指導
- ・山梨県北杜市にて、北杜市・THE NORTH FACE連携事業 Challenge Climbing in Hokuto 2022を開催
- ・神奈川県立スポーツセンターにて「障がい者スポーツ教室」全5回の指導を担当(視覚障害や知的・発達障害の子どもたちと保護者・兄弟を含め、26組53名対象)
- ・愛知県田原市にてプロクライマー・尾川とも子さん指導「インクルーシブボルダリング」プログラムのゲスト講師を担当
- ・AKIYO'S DREAMボルダリング体験会の指導を担当

## 仮設壁設置

- ・「CHUMS CAMP 2022」にてボルダリングウォール運営を担当(株式会社ランドウェル主催)
- ・大阪府堺市にて子供たちの障害者理解プログラム「わくわくサマースクール」の指導を担当
- ・江東区ファミリースポーツチャレンジ2022に仮設クライミング壁体験ブースを担当

## オフライン講演

- ・東京都立桐ヶ丘高等学校(東京都のチャレンジスクール。1年生12クラス約160名)
- ・千葉日本大学第一中学校(代表小林卒業校の兄弟校。中学2年生約260名)
- ・豊島区立豊成小学校(オリパラ特別授業。3年生全2クラス)
- ・亜細亜大学にてゲスト講師として登壇
- ・杉並区立松溪中学校の「いのちの授業」講演会にて代表小林が登壇(中学2年生120名超)
- ・島根ライトハウス ライトハウスライブラリー60周年記念行事にて講演
- ・三菱地所サロンイベントにて代表小林が登壇
- ・東洋大学にて代表小林がゲスト講師を担当

## オンライン講演

- ・代表小林が武蔵野大学にてゲスト講師を担当
- ・代表小林が日本サッカー協会「夢の教室事業」夢先生を担当(岐阜県美濃加茂市立太田小学校)
- ・栃木県教育委員会「上都賀地区人権ふれあいフェスタ」の講話を撮影

## その他

- ・両足の使えないクライマーたちの大会「第2回キャンパラバトル」開催協力、ライブ配信実施
- ・ガールズ・スポーツ・フェスティバル2022東京 powered by プレー・アカデミー with 大坂なおみに参加
- ・京都府京田辺市のユニバーサルクライミングハウス「Rock on the Beach」のリード壁に光るホールド「みちびクライミング・ライト」を設置

# Media

メディア掲載・出演

新聞掲載

## 日本教育新聞に代表小林インタビュー掲載

『勝ち負けのない種目で自己肯定』と題して、代表小林のインタビューとモンキーマジックの活動について掲載いただきました。

Web掲載

## 朝日新聞紙面とデジタル版に代表小林インタビュー掲載

『パラクライミング世界王者が「音で見る」街 新技術が日常を変える』と題して、代表小林の日常を追ったインタビューが掲載されました。

新聞掲載

Web掲載

## 株式会社ゴールドウイン コーポレートサイトに掲載

コーポレートサイトのCSRニュースで「THE NORTH FACE Monkey Magic Tee」2022年モデルを発売 支援Tシャツで障がい者クライミングの普及活動を支援して17年目と掲載

Web掲載

## 産経新聞コラム「日曜に書く」に掲載

「見えない壁も越えられる」と題して交流型クライミングイベントの様子や、2025年に向けた目標についてまとめた記事が掲載。

雑誌掲載

## 社会をたのしくする障害者メディア『コトノネ』に掲載

全国の障害者施設、就労支援施設の経営改革に関する様々な提案をおこなうことを目的とする雑誌『コトノネ』の特集「ラジオの福祉」内、東京・渋谷区のコミュニティFM 渋谷のラジオの紹介の箇所、番組を担当するモンキーマジックについてのインタビューも掲載されています。

新聞掲載

## 朝日小学生新聞1面に主催目かくしコンペの様子が掲載

「アイマスクでかべ登り ペアで協力してクライミング」と題して、11/19(土)に開催した 第8回 見ざるチャレンジクライミング取材していただいた内容や参加者のインタビューが掲載されました。

Web掲載

## 毎日新聞夕刊「読む写真」に目かくしコンペの様子が掲載

# Other

サポートグッズ・その他の事業

## サポートグッズ

### THE NORTH FACE サポートTシャツ 2022

17作目となる「人々のつながりが大きな光に！」がテーマのデザイン。



### 2022 CHUMS バッグ

コラボレーション11期目となる2022年モデルは、デイパック、ポストンバッグ、ショルダーバッグ、サコッシュ、ミニショルダーバッグ、キーコインケース、キーホルダーの7型。



### ROKX(ロックス)クライミングパンツ

コラボ2年目は優れた保温性と速乾性、極上の快適性を兼ね備えた素材 POLARTEC THERMAL PRO (ポーラーテック サーマル プロ) を使用したコラボ商品、M.M GOOSE STREET PANT (モンキーマジック グース ストリート パンツ)。



## その他の事業(一部)

### イベント用仮設ウォールレンタル

スポーツイベントや催事企画、フェス会場、研修会などに出展実績がある仮設壁レンタル事業。併せて障害者理解をテーマにしたワークショップや、専門ファシリテーターによる研修プログラムとしての提供も可能です。

### モンキーマジックつくば

まもなく9周年を迎えるモンキーマジックの根拠ジム。つくばエクスプレスつくば駅直結。〒305-0031茨城県つくば市吾妻1-6-1トナリエつくばスクエアQ't (キュート) 3F

### 寄付型自動販売機

モンキーマジックの活動に賛同いただいたクライミング・ボルダリングジムはじめ各施設に設置いただいている寄付型自動販売機。売り上げの一部が、モンキーマジックへの寄付となり、障害者クライミング普及の支援に使われます。

# Donation/Support

寄付・協賛のお願い

## 寄付・協賛の内訳



## 支援企業様

### 寄付企業/団体(一部)

ルルレモンアスレティカJP合同会社、朝日ライフアセットマネジメント株式会社、福岡舞鶴ライオンズクラブ、富士フィルムビジネスイノベーション株式会社 端数倶楽部、アズビル株式会社、azbil みつばち倶楽部、株式会社ヤフー、gooddo株式会社、アサヒ飲料寄付型自動販売機設置各オーナー

### 賛助企業

株式会社シーワテック、東商アソシエート株式会社

### 協賛企業

THE NORTH FACE(株式会社ゴールドウイン)、CHUMS(株式会社ランドウェル)、株式会社シーワテック、ROKX(株式会社SN Japan)、株式会社箕面ビール、株式会社敬洋、株式会社カンセキ、株式会社リプライ、アサヒ飲料株式会社



## 支援企業様の声

弊社では、公募投信・あすのはね(愛称)の信託報酬の一部を社会貢献活動に取り組む団体様へ寄付しています。クライミングを通して、多様性の理解を促進し、深い絆で結ばれた社会の実現を目指す貴団体の活動を応援しています。

朝日ライフアセットマネジメント株式会社



障害の壁を超えて身体を動かし協力し合う喜びを多くの人に広げる活動に共感し、年間助成金及びストアでの一般ゲストからの寄付金でサポートさせていただきました。今後はさらに一緒に信念を広げていきたい。

lululemon athletica JP 合同会社

「見えない壁だって、超えられる」をコンセプトに活動されているモンキーマジック様からは、その言葉通り、精力的に動かれている姿に常に感銘を受けております。また代表の小林様の通ってきた人生をお聞きし、その味わい深い人柄に接するたび、お知り合いになれたことの喜びを感じます。弊社は弱小なクライミングウェアのブランドではありますが、モンキーマジック様を通じて、全ての人々が少しでも生きやすい世界になれることをお手伝いできる機会をいただきましたことを心より感謝しています。

モンキーマジック様のこれからの一層のご活躍を期待しております。

株式会社SN Japan ROKX事業部 細野猛彦

# About

モンキーマジックについて

## ビジョン

障害者クライミング普及活動を通じて、多様性を認め合えるユニバーサルな社会を実現し、より成熟した豊かな社会を創ります。

## ミッション

モンキーマジックとは、「見えない壁だって、越えられる。」をコンセプトに、フリークライミングを通じて、視覚障害者をはじめとする人々の可能性を大きく広げることを目的とし、活動しているNPO法人です。

## 2023年度の目標事業

### 障害当事者の運動機会促進

コロナ禍から現在において、生活時間が変化した影響により、障害当事者の運動機会はまだまだ減少したままとなっています。外出機会の少ない障害当事者にむけて、改めてスポーツの選択肢を広げ、社会参加、健康増進、健康寿命の延伸に寄与します。

### NPO法人としての外部評価取得

2005年に立ち上がったモンキーマジックは20周年を見据え、これまでの公益活動がさらに社会的な意義あるものとして確立できるよう、第三者評価取得を目指します。

### 全国交流型クライミングイベント新地域立ち上げと発展の支援

18年にわたり障害者クライミング普及活動や、交流型クライミングイベント主催で得たノウハウを全国に共有して、全国各地でクライミングを通じた地域コミュニティ創造を目指します。

## 特定非営利活動法人モンキーマジック

2005年8月設立

事務所 | 〒167-0042 東京都杉並区西荻北4-4-2 セレスト西荻窪208

本部 | 〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町4-11-6

✉ info@monkeymagic.or.jp

🏠 <https://www.monkeymagic.or.jp/>

活動にはサポーターの皆さまのお力が欠かせません。モンキーマジックでは、ボランティアスタッフを募集しています。詳細はこちら

